

## 2019年度 第2回 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会 議 事 録

1. 開催日時 : 2019年10月17日(木) 19:00~20:28
2. 開催場所 : 町田市医師会館
3. 出席委員 : 川村益彦、五十子桂祐、山田潔、高橋克也、山崎優子、西原佳子、齋藤秀和、新甫孝子、星野和宏、川島政美、北場充、畑中猛、堀川忠貴(代理)、及川裕美子、永見直明、内山良平、石戸谷蓮、小金栄太、向良昌、齋藤美和子、高橋由希子、古味斉  
計22名(敬称略)
- (敬称略)
4. 欠席委員 : 無し
5. 市側出席者 : いきいき生活部 奥山孝  
いきいき総務課 佐藤智恵  
介護保険課 佐藤里恵、菊地原裕  
保険総務課 樋口貴晴、田村光平、  
高齢者福祉課 岡林得生、江成裕司、皆川麻美、国弘麻未、二串裕人  
倉谷直行  
市民病院 鈴木秀行、飯草みすず、平田真由美、柳本輝美  
医療と介護の連携センター 長谷川昌之、林裕大 (敬称略)
6. 医師会出席者 : 事務局 阿部斉人 (敬称略)
7. 傍聴者 : 38名
8. 記 録 : 町田市介護人材開発センター 石原正義、宮本千恵、山城真理子

### 《資料》

- 資料1 第12回多職種連携研修会実施報告
- 資料2 第8回喀痰吸引等研修(第3号研修・特定の者対象)報告
- 資料3-1 忠生第1高齢者支援センター地域ケア推進会議報告
- 資料3-2 忠生第2高齢者支援センター地域ケア推進会議報告
- 資料3-3 南圏域高齢者支援センター地域ケア推進会議報告
- 資料4 シンボルマークを使用した広報活動について
- 資料5 医療・介護資源マップについて
- 資料6 第13回多職種連携研修会開催要綱(案)

### 《開 会》

#### 1 開会挨拶

【川村会長】皆さん、こんばんは。遅くにいつもお集り頂きありがとうございます。今回ちょうど台風が来て、色々大変だったかと思うが、大きな被害はあまりなかったかと思います。前々から大きな台風、という事で色々な準備をされたと思いますが、日を変える事ができる場合は良いが、変えられない日程やサービスの内容等もあり、どうしたらよいのかと考えました。ニュースでご覧になったかもしれませんが、どこかの施設で利用者を2階に一生懸命運んだとの事。聞いたら毎年訓練していたので、比較的避難がスムーズにできたとの事。やはり日頃の準備は大事だと感じました。万が一、何かあったときは町プロの仲間で協力しあえたら良いのではないかと。

今日も色々議題があるかと思うので、よろしく願いいたします。

## 2 委員紹介

高齢者福祉施設部会で委員の交代があったので、自己紹介が行われた。

【高齢者福祉施設部会・内山氏】 高齢者福祉施設部会で会長の内山と言います。所属は特別養護老人ホーム芙蓉園で施設長をしております。7月から施設長交代となり、そのまま会長という事で引継ぎをしています。私自身これまで町田で在宅施設に勤めてきています。施設部会では、町プロで在宅の方々と連携を図りながら、関連機関と役割を果たしていきたいと思っております。

議長より資料の確認と共に、次第の訂正について説明。資料3-2の記載が3-3となっている旨が伝えられた。

## 3 報告事項

### (1) 第12回多職種連携研修会について

【高齢者福祉課・国弘氏】 資料に沿って説明（「資料1」参照）

### (2) 第8回喀痰吸引研修について

【町田病院・林氏】 資料に沿って説明（「資料2」参照）

本年度、基本研修にご協力いただいた病院・訪問看護ステーションの皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【齋藤副会長】 研修を見学したが、今回日本人じゃない人が出席されており、これから海外の人を受け入れる際、どのような研修をしていけば良いか、という宿題がでたかなと個人的に感じた。

【五十子委員】 海外の方にもわかるように問題を変えるという事か。

【齋藤副会長】 一番難しかったのは、海外の人が日本語の問題の内容をうまく理解できなかった事。林氏が一つ一つ説明し、それで点数を取った、という所があった。今回はまだ説明すれば理解できたので良かったが、問題の日本語が理解できない人にどのように対応するか、今後の課題かと。

【五十子委員】 そういう人はどういう状況で日本へ来ている人なのか。技能実習生なのか、インターンなのか。

【町田病院・林氏】 普通に住まれて働かれています方だと考える。

【五十子委員】 在日なのか。こちらの人と結婚しているから日本にいるのか。何故日本にいるのか。

【町田病院・林氏】 そこは確認しないとわからない。

【五十子委員】 確認しているか。

【齋藤議長】 次回の研修の際の課題の一つとする。

### (3) 地域ケア会議（忠1・忠2・南圏域）について

【高齢者福祉課・皆川氏】 5月の第1回の町プロ協議会以降、各高齢者支援センターで開催された地域ケア推進会議のうち、在宅医療連携に関連するものを掲載している。内容については各支援センターから順番に報告する。

【忠生第1高齢者支援センター・伊藤氏】 資料に沿って説明「資料3-1」参照

身近にクリニックが無くなったという地域がある。町田市内の中でも高齢化率の一番高い地域でクリニックが2つ無くなり、地域の方々が近隣に通えるクリニックが無くなり、どこに通ったらよいのか悩んでいる。クリニックは空いているので、できれば医師会の先生方が当

番で来てくれたら、という声を市民から聞く事ができた。

【忠生第2高齢者支援センター・中山氏】資料に沿って説明「資料3-2」参照

【南第2・菅氏】資料に沿って説明「資料3-3」参照

【五十子委員】自分が医師会の一人として思った時、この地域で、いつケア会議をやっているのかわからない。どのように知る事ができるのか。自分が声をかけてもらった所は当然分かるが、他の開催について一医師会員とすると知る術がない。それはどうしたらよいか。

【忠生第1高齢者支援センター・伊藤氏】当支援センターの事しか把握していないが、医療系の地域ケア会議、講師に医師会の先生をお招きする場合は、医師会の事務局にメールを流させて頂き、医師会加入の先生方にメール配信をお願いしている。その他に、先生方は非常に多忙だという事は把握しているので、担当している地域のかかりつけ医の所には支援センター全職員が担当割をして、個別に訪問し周知をしている状況。メールもなかなか見られていなかったり個別に行っても分からない、という事であれば再度周知に対する方法を考える。

【斎藤議長】現在、各センターから周知、という事でセンター毎に対応がバラバラになっているのも一つの課題かと思うが。

【高橋委員】センター毎に情報があり、メールなりFAXなり送っているのが今の状況。緩やかなルールとなっているが、カチっとした方が良いような気がする。医師会の先生方も薄々そう考えているかもしれない。本当にそうなのか調査したいので、そこはきちんとやり方を決めて、少し考えたい。

【五十子委員】せめてその地域にいる先生には、メールで近くなったら教えていただきたい、というのが1つ。時間的に出られない先生が多いかと思うが、何を話し合ったのか、という情報提供に物凄いタイムラグがある。6月にやった事を今になって知る、という状況。スピード感があつたほうが良いのでは。忠生第1高齢者支援センター、忠生第2高齢者支援センターの先生方が参加があまりできない中、南圏域は多くの先生が参加している印象。開催時間とか色々な要因があると思うが、色々な報告方法を持っていれば有難い。普段、自分が一医者として、介護の方と接する機会はほとんど外来以外なくなっている。

【忠生第1高齢者支援センター・伊藤氏】地域ケア会議の内容によって、開催時間を住民に合わせて昼にするか、先生方に合わせて夜にするか、非常に悩むところ。これは他の支援センターも同じかと考えられる。内容によっては住民の方に開催時間のアンケートをしたり、いつ参加できるのかといったリサーチをしてから開催、という運びになっている。だが住民目線の内容で開催となると先生方の診療時間と重なってしまう。そうすると指摘の通り、医師の先生方が非常に参加しづらくなる。

【五十子委員】医者が地域ケア会議でやった事をどこかで見る事ができないのか。

【忠生第1高齢者支援センター・伊藤氏】支援センター側も声を掛けただけでなく、こういう事をした、というきちんとしたフィードバックは必要だと考える。タイムラグが出ないよう、きちんと報告は市に上げているので、それをもう少しソフトワーク軽く、参加された先生、されていない先生にフィードバックしていく事は必要。

【五十子委員】どこかのホームページで見られるとかはないのか。報告にの為に時間を合わせる事はなかなか難しい。

【忠生第1高齢者支援センター・伊藤氏】一番良いのは市役所に報告しているので、市役所がホームページ等にあげるのが良いのでは。これは個人の意見なので、他の支援センターの意見も聞いた方が良い。

【高橋委員】支援センターに任せるのは限界があるので、少しまとまったやり方を支援センターと詰めた。市のホームページで見られるようにする、というのも一つの手。そういう事

を検討させてほしい。参加された先生、されなかった先生、医師以外の方にも是非見ていただきたいので、町プロ協議会の場だけでなく、見られるような機会を作りたい。見られた方が励みになるかと思うので、よろしく願いいたします。

【斎藤議長】ありがとうございました。地域ケア会議の周知方法、もしくは結果のフィードバック方法、あるいは開催方法については、高齢者支援センター連絡会と市役所で協議していくという事にする。

#### 4 協議事項

##### (1) シンボルマークを使用した広報活動について

【シンボルマーク部会・多賀部会長】 資料に沿って説明「資料4」参照

【斎藤議長】活用例1から3までは、前回報告があったシンボルマーク使用の手引きにおいて使用例として示されているので、今回活用例4のステッカーを作る、という提案について、意見をもらえるか。

【五十子委員】ステッカーは1事業所に1枚か。

【シンボルマーク部会・多賀部会長】一応、1事業所に1枚、という事を想定して作成を予定している。

【五十子委員】訪看やデイサービス等の車に貼って、市民の目にふれてもらいたいのであれば沢山作らないと。

【シンボルマーク部会・多賀部会長】枚数はもう一度再考し、部会内で検討する。ステッカー作成の方向で進めさせて頂きたい。

【斎藤議長】連絡会や所属団体当たり何枚頂ける形になるか。

【高齢者福祉課・二串氏】配布に関しては、直接連絡会に承認頂ければ配布する。枚数に関しては、再度部会で検討させていただきたい。皆さんがステッカーを使って頂けると助かる。連絡会の方でも欲しい枚数があれば、各事業所当たり3枚配りたい、という事であれば増やしていきたい。

【高橋委員】町プロに加入している事業所単位でいえば1100位かと。色々な所で活用してもらいたいので、それを踏まえてどれだけ複数枚配れるか、次の協議会は2月になりそこからだと遅いので、枚数に関しては部会に任せて頂き、決定したら各団体の代表を通して配布して頂く、としたい。

【川村会長】大きさはどれ位か。

【高齢者福祉課・二串氏】円形で直径15センチ位。

【川村会長】予算の都合もあるだろうが、1事業所に1枚だったら、もっと大きくないと目立たないのでは。

【高齢者福祉課・二串氏】「いいことふくらむ町田」のステッカーと同じ大きさくらいを想定している。

【五十子委員】個人で欲しい人は購入できるのか。

【シンボルマーク部会・多賀部会長】ぜひ買って頂きたい。

【斎藤議長】ステッカーは作るという事で、各団体で是非活用いただきたい。枚数に関しては希望の枚数を聞き、市と部会の方で調整をする。町プロの周知に活用する、という事で承認いただけるか。

全会一致で承認された。

##### (2) 医療・介護資源マップについて

【高齢者福祉課・二串氏】医療介護資源マップですが、今年の6月25日に部会を立ち上げ、これまで4回部会を開催した。部会メンバーは薬剤師会の高橋氏を部会長とし、医師会、歯科医師会、高齢者支援センター、ケアマネジャー連絡会、介護人材開発センター、オブザー

バーとして株式会社スズケンに入ってもらっている。高橋部会長から、医療・介護資源マップに関して説明する。

【高橋(克)委員】資料に沿って説明「資料5」デモンストレーションまで参照

ここからデモンストレーション

【(株)スズケン・西室田氏】今回医療介護資源マップ検討部会でご検討いただいた内容を基に、グーグル社のマイマップサービスを使いサンプルマップを作成した。このマップはパソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットでも見られるようになっている。先ほど説明があったように、掲載カテゴリーとして資料にあるが、今回町プロに参加されている団体を7つのカテゴリーに分けた。それぞれのカテゴリーにチェックボックスがあり、そこをチェックすると地図上に該当するカテゴリーのマーカーが表示される仕様になっている。現在高齢者支援センターだけにチェックが入っているので、マップ上に高齢者支援センターが表示されている。それぞれのマーカーをクリックすると、画面左に各施設の詳細情報  
が掲示される仕組みとなっている。こちらの掲載情報については、現在まだ試作段階のため、完成する画面とは多少違うが、基本項目については 事業所名、住所、電話番号、FAX番号、各団体へのリンク先URLを考えている。次に「病院診療所」をクリックする。こちらが基本情報という事で先ほど申し上げた項目を載せる予定になっている。医師会のURLが掲載されているので、こちらをクリックする。そうすると医師会のホームページに飛ぶ。このURLをクリックすると各団体・協議会のホームページに飛ぶ仕様になっている。各施設の基本情報以外の詳細情報は各団体のホームページを参照していただければ、と考える。ベーシックな使い方については、利用する方の住所・居住地を入力しマップにマークする。近隣にどんな事業所があるか、という使い方ができる。ここでは川村会長の川村クリニックのある、本町田2943で入力してみる。(入力)入力すると、川村クリニックの近隣のマップが出てくる。先ほど高齢者支援センターと「病院」にチェックをいれているので、本町田2943周辺にある、忠生第2高齢者支援センターと各医療機関が表記される。例えばこちらで近くの歯科を探す場合、「病院診療所」を消し、「歯科」にチェックする。すると近隣の歯科医師会に入会している歯科が表記される。チェックを消し「在宅訪問」をチェックすると、近隣 にある「在宅訪問」にカテゴライズされた事業所が、カテゴリーの名前と共に表示される、という仕様になっている。こういった流れで基本情報を掲載し、使用していただくという流れで想定している。

デモンストレーション終わり

【高橋(克)委員】資料に沿って説明「資料5」デモンストレーション以降を参照

【斎藤議長】医療介護支援マップのマップ、あるいはリストの進捗について説明があったが質問はあるか。

【川島委員】福ナビにここにある全ての情報は登録していると思うが、再度ここにいる委員が一人で取りまとめるという事か。

【高齢者福祉課・二串氏】福ナビは別に管轄があると思うが、今回は町プロ参画団体の事業所に限定している。そこはできれば各連絡会で取りまとめして、連絡会に加入している事業所という形で、同じ情報で構わないので情報提供いただきたい。

【川島委員】取りまとめる自信がない。訪問介護事業者協議会に入っている訪問介護事業所は50パーセントを切っている。だが協議会に入っていない、という事で市民が見て使えないと思われるのはいけない事だと思う。100%入っているのであれば、それは福ナビからデータを持ってくる事ができると思うが、訪問介護は厳しい。他の皆さんの部会ではどうだろうか。

【斎藤議長】原則、所属団体の人が登録にあたる、という事か。

【高橋(克)委員】各団体ごとに取りまとめていただきたい。薬剤師会であれば薬剤師会が取り

まとめ、医師会なら医師会が取りまとめたものを、掲載するという形にしたい。

【五十子委員】福ナビでは本当に全部情報が出るのか。基本的に町プロの連携を強めたいと考えている。大変で申し訳ないが、福ナビに飛んでください、という事では行政と一緒にやっている意味合いがない。

【川島委員】取りまとめるのに、電話番号とかFAX番号とか住所とか訪問介護なのか訪問看護なのか、という事を福ナビから持ってくるので良いと思うが、その事について質問している。都度、電話して集めるのは不可能なので、福ナビからデータを持ってくるのではどうだろうか。ここにまとめるのは良いと思うが、取りまとめ方として、福ナビを使えば良いのではないか。

【高齢者福祉課・二串氏】今回の地域資源マップは町プロに加入されている事業所に限定したい。理由としては、連絡会に入っていない新しい方も連絡会に入るきっかけに使えるのではないかと考える。正直難しいのであれば、少なくとも連絡会に加入している事業所名等、分かる範囲で出して頂きたい。どこまで我々の方で手間暇かけるかわからないが、部会ではどういう事業所が加入しているか、という情報も無いので、そこは提供いただきたい。

【川島委員】事業所一覧は当然どこの事業所の方も持っている。そこに今から欲しい情報は全て福ナビに入っているの、それをプリントアウトする。訪問介護は44~45箇所なので、それを渡す事は容易と考える。

【高齢者福祉課・二串氏】それで構わない。宜しくお願いします。

【川村会長】今のだと、きちんと了解をとらないといけないのでは。

【川島委員】個人的な考えだが、訪問介護の協議会が来月あるが、まずこのシステムに賛同するかしないかを全ての事業所に確認するとなると、総会まで待たなければならない。地区に持ち帰るなどしたら、1月末迄に、全ての事業所が集まるような日程が組まれていないので厳しい。それこそ市役所等から、町プロでこのような事をやる、と全部市役所から発信すればこういう話が来ているが反対はあるか、と問えば何とか間に合うかもしれない。今この時期に発信しても、この予定に間に合うような協議会の活動ができていないので、厳しいと考えられる。

【高齢者福祉課・二串氏】反対があるか無いかだけ確認いただいて、来月の訪問介護の協議会で反対が無ければそれで掲載させて頂ければと考える。他の事業所は同様に課題があるだろうか。

【斎藤議長】掲載するのは加入団体のみとし、事業所から反対が出る危惧がある団体はあるか。

【石戸谷委員】会員の皆さんには同じようにこのURLを見てもらえたら話が早いと思う。自分が見る事は可能か。

【斎藤議長】現在のものはデモンストレーションのみで、まだ一般公開はされていない。

【石戸谷委員】見ないとイメージがつかないのでは。今見たら凄く良いと感じる。これを会員にこういうものだ、と見てもらいイメージがつかないと、言葉だけでは伝わりにくい。

【斎藤議長】データの提出は紙ベースで入力し、提出するのか。媒体は何か。

【株式会社ズケン・西室田氏】基本ではデータベースとなる。

【斎藤議長】基本はデータベースで、難しければ紙ベースも応相談という事か。

【高橋(克)委員】量にもよるか。

【株式会社ズケン・西室田氏】作業的な話になる。入力ミスもあるので、できればデータの方がありがたい、というのが本音だが、難しければ紙ベースの方も中には居るか。

【高橋(克)委員】これは町プロで協力してやっていこう、というもので、期日も迫っているので、強制して何かを出して下さいというものではない。既にできているものをリンクさせたり、これを機に協力したり最初はできる範囲内からのスタートになると思う。来年の1月迄に完璧にまとめて出してくれ、というものではないと考える。まずはその辺からのスタートという事でどうか。

【斎藤議長】まずは各連絡会で持ち帰って、意見があれば頂くという事からはどうか。

- 【五十子委員】町プロでやるよ、という事の通知で良いのではないか。そのために協議会をやっているのではないか。各代表はそのため出席している。行政や町プロで各団体の事業所毎にアンケートを取るのナンセンスではないか。各団体の意見としては協議に入れていいと思うが、町プロの中で決めたとの事での通達でよいのではないか。どうしても賛同できないのであれば、それを部会に出してもらい、部会の方で外す、という事をここで決めれば良いのではないか。
- 【新甫委員】ケアマネジャー連絡会では今回のマップに関して、ホームページの内容は市民に公表していい、という同意の元で出ているので、こちらの情報を主として活用していこうと考えている。
- 【山田委員】これに賛同するかどうか各事業所でそれぞれあると思うが、基本的に歯科医師会でホームページがあるので、会に入っている先生しかでないし、福ナビは調べた事がないが、ネットで調べたら出てくる情報だと考えられる。それをまとめただけのものなので、誰か調べようと思ったら調べられる訳であり、それを阻止する人はいないのではないか。既に出来上がっているものをあくまでも集約してまとめて連携をとって、という考え方であるとする。改めて新しく作るものではなく、既存のものをまとめて使いやすいように市民、他職種の方々に使っていただくというマップなのでその辺を理解いただきたい。
- 【山崎委員】訪問看護ステーション連絡会は既に介護人材開発センターとまとめた、もっと細かく登録しているデータがある。それを来月の連絡会で掲載したくない所があるがどうか、メール配信し、一度、連絡会に登録している団体としては、冊子・データになっているものを活用する方向性で11月の連絡会で話し合いをする。
- 【向委員】視点を変えて前向きな話というところで、先ほど今後情報の追加もあると話が出たが、市民の方にはタイムリーに変わっていくのがいいと考える。一年たっても変わらない情報があるとなかなか使い勝手が悪い。なので、部会のほうで、頂いた意見を意識して検討してもらえると、使いやすい意義のあるものになるかと考える。
- 【斎藤議長】すでに各団体等が出しているリストを、町プロという単位で、市民に見やすく公表しやすいものにデータを取りまとめていくという方向でよいか。頂いた意見を基に部会の方で検討を進めていく、という事で。載せる・載せないについては各団体で確認していただく。
- 【高齢者福祉課・二串氏】それをお願いする。事業所名・住所・電話番号・FAX番号・リンク先のURLを伝えられるようなフォーマットを各連絡会に個別で送る。可能であればそこに記入頂ければ助かる。協力をお願いする。
- 【斎藤議長】締め切りについては再考するか。
- 【高齢者福祉課・二串氏】締め切りは1月末の時点で締め切る。そこに間に合わなければ掲載は見送る、という形になるので了承頂きたい。
- 【斎藤議長】頂いた意見をもとに部会で進める、という事の承認でよいか。

全会一致で承認された。

### (3) 第13回多職種連携研修会について

- 【向委員】前回、研修に向けてのアンケートに答えてもらったので報告する。多かった意見をまとめた。取り上げてほしい研修テーマとして、在宅療養、看取り、フレイル、アドバンスケアプランニングといった意見が多くみられた。その他の意見として町田市の救急車状況や、正しい救急車の呼び方、#7119の活用、末期がんの過ごし方、訪問診療を行っているクリニックの紹介、お薬手帳の活用、いくつか貴重な意見を頂いた。今回はこれらのアンケートを踏まえ部会で検討させて頂いた。
- 本日提示するのが、P21の開催要項となる。

資料に沿って説明「資料6」参照

記載にはないが、この後懇親会も予定している。懇親会があるという事を連絡会の代表を通じて連絡会に周知願う。改めて日時等の通知をする。本日開催要項の承認後、チラシを確定し市民周知のチラシを配布していく。各代表を通して委員の皆様へチラシ・データを渡す。広く市民に周知できるよう、目につく所に置いたり配布するなど協力いただき、在宅療養につながるような研修にしたい。本日の協議だが、研修の内容は大枠である。内容を深める為の助言があれば是非伺いたい。

【斎藤議長】以上が内容の説明である。開催要綱について意見を五十子委員から。

【五十子委員】救急病院の種類というのは、1次救急、2次救急、3次救急の事か。町田市は3次救急がない、という説明の事か。

【向委員】3次救急がない、という説明ではなく、一般的な救急、町田市の現状も含めた救急病院の説明をして頂く。皆さんの意見等を踏まえながら講義の内容の変更も考えている。3次救急については意見があれば考える。

【川村会長】かかりつけの時にも話したが、そもそも1次救急、2次救急、3次救急といってもわからないので、説明するのが良いのではないかと。市民病院は2.5(次)位とそういう話しをするのは良いと思う。以前、金森の人が病院にきて何故金森から来るのか、と思った事があった。その日は慶泉病院が救急当番だったが、何故ここに来たのか確認したら、救急病院のかかり方がわからなかった、かかってはいけないと思った、との事。医師会や市がやっている休日当番を、市民が理解していない事に驚いた。なので、そういう話も良いのではないかと。我々の努力が足りないのか、とも考えた。その辺りの話も是非講義に入れて頂きたい。

【高橋(克)委員】全体的に、とか扱い方を間違えると、「皆さんがタクシー代わりに救急車を呼んでいるので、病院や医者がたんでこ舞いなのです」と聞こえてしまうのではないかと。実情を出すという事だが、上手に使う事によって駆けつける時間が早くなる等フィードバックを出さないと、来る時間が遅くなっている、救急で運ばれている人が多いです、というような扱いになると市民がとがめられているように聞こえてしまうかもしれない。上手に使うと市民にもメリットがあるし、病院も円滑に回る、といった資料内容にしてもらえれば。

【向委員】貴重な意見ありがとうございます。部会の方でもどう表現するのか、とだいぶ話しあった。最初、救急車の「適正利用」という言葉も考えたが、ちょっと強いので「上手な利用」という表現を考えている。#7119とかあんしんキーホルダーという色々な資源を使う事によって、救急車だけではなく、日頃からかかりつけ医と協力しながら、市民の方に救急車を上手に使って頂くポイントを伝えたり、指摘の意見を踏まえた内容で話していきたい。講師陣にもそれで打ち合わせしていく。

【斎藤議長】市民の方に知って頂きたい事と、知って頂く事で安心に繋がる、あるいは適切な利用に繋がる、という内容で検討するという事で。

【五十子委員】あんしんキーホルダーだけでなく、町プロで配布している救急医療情報キットについてはどうか。

【向委員】私の説明不足で申し訳ございません。今回のお土産として、救急医療情報キットを配る予定で考えている。

【五十子委員】病院の救急車もあると思うが、その話についてはどうか。

【向委員】先程の救急車の話もあるが、病院の救急車についてもいろんな資源を是非紹介していきたい。

【斎藤議長】救急医療情報キットと病院救急車にも触れるという事で。他に救急に関わる意見はあるか。

【西原委員】目的のところ、「高齢者の救急搬送の実態を知り」、というところが気になった。命のセーフティネットとしても救急車の使い方は皆さん解っているかと思うが、上手な使い方というのが一番難しい。どうしても救急車の使い方には焦点があてられると難しいテーマに

なってしまう。今回、色々なケア会議等見た中で、かかりつけ医に相談する事が一番上手なかかり方ではないかと感じた。訪問看護師にすぐ連絡をとったり、専門機関、連絡機関等、日頃身近に見てもらっている所に相談するのが一番だと考える。実際、体に異変を感じた場合、日頃からの自身の体調管理する方法を作っておく事のメリットを大きく説明して貰ったらよいのではないかな。

【齋藤議長】その辺りがパネルディスカッションの内容という事なるのか。

【向委員】パネルディスカッション3番に、「日頃の備え・心構え」とある。先程の助言の通り、日頃からいかにかかりつけの先生と協力するとか、情報を集める等、日頃の備えで安心して備える、在宅療養ができる、という事を意識しながらパネルディスカッションしていきたい。

【齋藤議長】意見を部会で検討し、この要綱で開催するという事でよいか。

全会一致で承認された。

## 5 その他

### (1) 各協議会委員の報告・意見交換など

・第1回「町田市ソーシャルワーカー連絡会学習会」について

【西原委員】開催日時は11月15日健康福祉会館で開催する。ソーシャルワーカー連絡会は今年から設置された会。病院の一部のソーシャルワーカーの会であったが、相談援助者が協力して地域貢献として会を進めていこう、という事で開催した。そういった内容で第一回なので、テーマは「語り合おう、ソーシャルワーカーの仕事について、つながり合おう、市民の身近な相談者として」こういったテーマを掲げて第一回目を開催する。

資料に沿って説明「別途ちらし」参照

初めての会なのでどれくらい集まるか未知数だが、開催する事をお知らせする。

【齋藤議長】学習会について、対象は専門職の方になるのか。

【西原委員】相談援助者で考えている。ソーシャルワーカーのみの参加。相談援助者が一堂に集まるための学習会となる。

### (2) 次回の協議会の開催日程

次回は、令和2年2月中旬開催予定となっている。調整がつき次第、連絡。

## 閉会挨拶

【齋藤副会長】皆様、遅くまでどうもありがとうございます。部会の皆様も仕事が忙しい中、夜に集まって頂き、ありがとうございます。町プロって何？と言われた時に、こんな事を行っているという事が、今回言えると思いました。医療・介護資源マップというのが一番わかりやすいのではないかな。シンボルマークをつけて市民に見てもらえたら、町プロってこんな事を行っているんだと、見える化する一つの材料になる、と今回感じた。一人一人、部会に参加してくれる努力は大きい。これからも皆さんが市民に向けて、何が市民にメリットがあるのか考えながら活動してもらえたら、とてもありがたいと個人的に感じた。一番大変なのは部会の皆さんだが、12月14日の市民向けの多職種連携研修会は、皆さんに力を合わせてもらって、市民に向けて色々な理解をしてもらうのが大切。救急に関しては難しい問題も多いが、一番ドクターが見てわかりやすいのは、どんな薬を飲んでいるのかということ、等部会でも検討されている。訪看とドクターとの連携であったりかかりつけ医と病院の連携等「連携」という部分を中心に、話し合いをされているというのが現状である。12月14日の研修会には多くの市民が来てくれたらいいと考え、医師会の先生方にもお願いしたいのは、ポスターを貼って市民に周知して、かかりつけ医と救急医の関係を理解してもらえると有難いな、と個人的な感想です。今日は遅くまでありがとうございました。

以上の議案審議、協議を行い、2019年度第2回の協議会を閉会した。

以 上